



# 2003年度 事業報告書

特定非営利活動法人



〒231-0001 横浜市中区新港2-2-1  
横浜ワールドポーターズ6F NPOスクエア  
TEL:045-222-2023  
FAX:045-222-2024  
<http://www.shimin-sector.jp>  
[info@shimin-sector.jp](mailto:info@shimin-sector.jp)

# 特定非営利活動法人 市民セクターよこはま 2003年度 事業報告書

2003年4月1日～2004年3月31日

〔2003年度重点分野〕

2003年度は「活動者ネットワークであり、支援組織である」本会の強みを活かした事業運営とするため

- (1) 信頼される組織としての基盤固め
- (2) 現場情報を出し、集め、編集・加工
- (3) (2)の現場情報をすべての事業に反映させていく、以上3点を重点としました。

## (1) 基盤固め

継続的な連絡会活動、横浜市市民活動共同オフィスおよび保土ヶ谷区かるがも塾などの受託事業の実施、提言活動、調査活動、地域福祉計画策定推進委員会などの各種委員会への参画、横浜市社会福祉協議会との協働、積極的な出版・広報活動などにより、「信頼感」の醸成が進んでいると思われま

## (2) 現場情報の収集・加工

以下の3冊を発行しました。

- ・現場フィールドワークを重ね、集めた情報をもとに作成した「困ったときのゲンバの知恵袋【訪問介護編】」
- ・地域デイ・サロン団体 230以上から収集したアンケート結果をもとに作成した「横浜市内 地域デイサービス・サロン実態調査報告書」
- ・精神保健福祉ユーザー・また対応するホームヘルパー・ボランティア等から収集したアンケート結果などをもとに作成した「サラバ日課表 制度を活かして地域の人とともに暮らす」

## (3) 事業への反映

上記に対応して、「知恵袋システム」という事業型NPOの相互支援のしくみづくりと情報更新のためのフィールドワークへと前進させました。また、横浜市社会福祉協議会との協働事業として「デイサービス・サロンハンドブック」作成のため、地域デイ関係のフィールドワークに取り組みました。

また、2003年度事業は、これらフィールドワークや調査結果をもとに企画・実施しました。

## 【1】組織運営

会員の一層の積極的な参画を図る。

理事会・運営委員会は市民の立場に立ち、社会のニーズを先取りし、柔軟・迅速に動き、多様な情報手段を駆使しつつ、組織の強化を図る。この2点を目指しました。

### (1) 会員の拡大

法人化にあたって活動分野を広げるため、年齢層や会員数の拡大をはかりました。

会員数 2003年5月26日総会開催時 89 2004年3月末 現在 145

内訳 正会員 119(団体 60、個人 59) 準会員 19(団体 11、個人 8) 賛助会員 7(企業 1、団体 1、個人 5)

### (2) 会員との意見・情報交換等

#### ア) アンケートの実施

2003年3月から4月にかけて実施。当会の基盤が整いつつあることで、提言活動についてなど、アドボカシに対する期待が多くありました。反面急激な発展についての懸念の声や、事業型NPO関連の事業に片寄っている印象があるという声もあったため、2003年度の事業計画はそれらの声を反映して作成・実施しました。

## イ) 会員相互の情報ネットワークの構築

8月に、会員のメールアドレスを収集・整備し、約50%(86件)の団体・個人にメールで迅速に情報提供ができるようになりました。 P17 広報 メールマガジンの項 参照

## ウ) テーマ別連絡会・プロジェクト活動等を通じての会員相互の交流促進

新規連絡会として精神保健福祉RENRAKU会立ち上げ準備を5月から開始、6月呼びかけセミナー、8月にサロンを開催、正式に発足しました。配食サービス、デイ・サロン、事業型NPOの各連絡会とも、活発に研修事業、提言活動、交流に取り組むことができました。

しかし、各連絡会会員の主体性については、配食サービス連絡会以外は、やや一部理事・事務局に企画・運営が偏っており、また連絡会ごとの自立性を保ちつつ、ミッションを共にしている本会のプロジェクトとしての有機的なつながり・重層的な強みが充分発揮されていないことは課題です。

## エ) 個人会員向け企画の実施

ワールドポーターズ内「ニューライフマート」との連携の中で割引販売の交渉をしています。

エネスペースは2割引、他の福祉器具販売店等は一律の割引は難しいが、相談にのるとのお返事です。サービスの対象範囲の調整・会員への広報などは、2004年度行います。

ほかに、個人会員の所属団体・グループのホームページを、(財)神奈川県経営者福祉振興財団との連携で、無料で作成していただけることになりました。 P13 (2)イ 連携協働事業の項 参照

## (3) 会員団体による各区ネットワークの立ち上げ準備 (本年度は3区程度)

地域福祉計画への市域及び各区での積極的な参画をめざしました。市域計画については参画できました。区域の地域福祉計画に組織として参画するには、区ごとのネットワークが必要との認識から立ち上げ準備を計画しましたが、特に区のネットワークがなくても、会員の所属団体で区計画への参画が可能であったり、委員を公募する区もあったため、そのPRをニュースレターで行うに留まり、具体的な成果は出せませんでした。

## (4) 理事会・運営委員会の充実

新たな分野からも運営委員を迎え、「地域での暮らし」を幅広くカバーし「市民性」を高めることをめざしました。

障害者福祉に詳しい木村氏、障害当事者活動に長年取り組んでいる島田氏、福祉分野の広報に詳しい高橋氏、設立当初から個人会員でセミナー・交流事業にも詳しい常光氏、移動サービス協議会事務局で行政書士でもある山野上氏、有為グループ活動者であり音楽活動もおこなっている渡辺氏、個人としての参加ですが役職は横浜市社会福祉協議会地域活動部長である小嶋氏の計7名を新たに運営委員に迎えました。

新しい知恵をいただいて更に運営が充実した反面、具体的な活動機会の提供が充分でないため、その力を活かさきれていないところもあります。具体的事業についての参画を、意識し働きかけていく必要があります。

## ア) 定例・臨時各会議の開催

車椅子ユーザーの運営委員3人の利便性等を考慮し、青少年育成センターの研修室を定例の運営委員会開催場所と定め、第三水曜日18時から毎月定例で開催しました。

## イ) 財政、人事労務、事業の役割分担と実施

財政・人事労務の担当理事は増田氏です。事業毎に運営委員全員の役割分担を決めようとしたのですが、実行は難しいところがありました。各連絡会・プロジェクト担当の松本氏、柳原氏、南出氏、濱田氏は実践が続いています。

## ウ) シンポジウム、セミナー等の企画・協力

毎回運営委員と事務局で相談しながら開催しています。特に運営委員所属の団体は積極的に参加・参画してくださっています。

## エ) 理事・監事・運営委員選出方法の検討

「個人名」ではなく「どのような人材」が必要か、そしてそれをどう選ぶのかについて検討し、運営委員は中期ビジョンに基づき獲得していくことになりました。理事長・副理事長等の選出方法については、さまざまな案を整理・検討した結果、2004年改選時の候補者については3月の運営委員会での討議を経て、下記のようにまとめられました。

現理事長・副理事長から1名は残り、継続性を担保すると共に、理事長は2期4年を在任の目安とし、固定化は避ける。

理事長には

- ・多様な団体のネットワークである本会がまとまることのできる人物
- ・福祉の本質を理解している人物
- ・完成した力をもつよりも、多くの人を支えよう、協力しようと思える人物

副理事長については、

- ・2名のうち1名については財務・法令などに明るい人物
- ・理事長・事務局長の相談役・補佐役を担いえる人物

## (5) 事務局体制の充実

### ア) 定例・臨時会議の開催

毎週水曜日に実施し、事務局員の情報共有をしています。

### イ) NPOスクエア、共同オフィスにおける事務分担の機能整理

共同オフィス事務スペースにおいては共同オフィス関連業務のみとし、NPOスクエアは、それ以外の会のすべての業務を行なうこと、と切り分けを行いました。

### ウ) ボランティアスタッフによるサポートの実施

月曜：常光日出男さん、火曜：勝田泰輔さん、水曜：峰鶴象さん、日曜：遠藤盛久さん、宮田貞夫さん、主に5人がボランティアスタッフとして事務業務等に協力・サポートをして下さっています。

### エ) 事業、事務、会計の役割分担と実施

事業に「主担当・副担当」を設け、事務・会計についても、役割分担を明確化しました。

### オ) シンポジウム、セミナー等の企画・協力

連絡会や、理事・運営委員が企画発案するセミナー等に、企画段階から積極的に参画、協力しました。

## (6) 中期ビジョンの検討

昨年度取り組んだ世話人リトリート等の成果をふまえ、中期ビジョンの検討を行いました。

将来を見渡した判断をしていくため、「展望のシート」という手法を使い、制度改正等世の中の動き、ステークホルダーである利用者・会員のニーズとこれまでの歩み、現状把握、今後の見とおしを連動させながら「市民による自治社会の形成」というミッションに近づくようビジョンを策定しました。運営委員会での検討をもとに案を作成、会員へ送付し意見を求めましたが、特に修正意見等はありませんでした。

2004年度事業計画の冒頭に掲載

## 【 2 】 事業内容

### - 1 - 市民活動の支援・連携・ネットワークの推進に関する事業

#### ( 1 ) テーマ別連絡会・プロジェクト活動

地域に根差したボランティアな市民活動がより活発になるよう互いに支援し、サービスの向上に努め、また、各連絡会・プロジェクト内での情報交換、共通課題のセミナーの開催、情報提供等を進めることを目指しました。

#### ア) 配食サービス連絡会

「自立支援としての食事サービス」という視点から、これまでの活動をふりかえり、市民が担っている食事サービス活動の方向性について考えることができました。

##### 利用者の食生活についてのアンケート調査まとめ 完成

日時：2003年6月

目的：アンケートは昨年夏に実施し、市民活動として実施されている配食サービスが、利用者の自立にどのような支援となっているかを統計的に明らかにしました。また、それを行政の担当関係者に届け、具体的に活動の現状を知ってもらう資料としました。

##### 横浜市福祉局へ要望書提出

日時：2003年8月6日 9:30～12:00

目的：1.市民が担っている食事サービスの現状を具体的に伝える。2.行政の食事サービスとは異なる意義があることを、アンケートをもとに伝える。3.配食サービスを介護予防・自立支援サービスとして位置付け、見守りも含めて取り組んでいる市民による配食サービス活動への、多方面の支援を要望する。

参加者：企画課1名・地域福祉課3名・まちづくり課1名、連絡会6名

評価：市が取り組んでいる市民活動支援策について、また来年度からの市食事サービス事業の変更の説明がありました。地域福祉・支えあい連絡会等と市民が担う配食サービス活動との関わりの意義などを話し合うことができました。活動拠点であるケアプラザ活用についても要望を伝えることができました。

##### 施設見学「戸部本町地域ケアプラザ」・「ハマノ愛生園」

日時：2003年9月10日 10:00～12:00 参加者：10名

目的：新設の戸部本町地域ケアプラザにおいて、西区全域の配食サービスの実施を働きかける取り組みの支援のため、また最新のケアプラザの厨房設備を知るため。

##### 研修交流会「食事サービスを考えるつどい」実施

日時：2004年1月24日 13:30～16:00 参加者：54名(41団体)

会場：横浜市健康福祉総合センター9階大会議室

講師：「食の自立支援事業」と市民による食事サービス 野村知子氏(桜美林大学経営政策学部助教授)

「横浜市の食事サービス事業の現状とこれから」 鈴木裕子氏(横浜市福祉局高齢在宅支援課事業担当係長)

目的：「食を通じた自立支援」という観点からの市民による食事サービスの意義について学び、これからの活動の方向性を考える。また行政施策の食事サービス事業が「介護予防・地域支えあい事業」に位置付けられ実施内容が変わることによる今後の課題についても考える。

評価：これまでの活動についての確信を深めることができたと同時に、今後の活動の方向性について考えることができました。市内の41の食事サービス団体が集い、今後の連携の基となる機会となりました。

## イ) デイサービス・サロン連絡会

市内初めてのデイ・サロンの実態調査報告書から、共通課題の解決に向けて、行政への提言とセミナーの開催を実施しました。(これらの事業は、ユニバーサル財団の助成のおかげで実施することができました。)

今年の調査や横浜市社協との連携が、新たなMAP(マネジメント支援プロジェクト)の協働事業として受け継がれ、地域デイのマネジメントハンドブック作成につながったことは大きな意義があります。

連絡会の組織体制が弱く、参加メンバーが固定化しません。デイ実施団体の会員も増えている矢先、体制を立て直していく必要があります。

### 市内デイサービス・サロン実態調査報告書の発行

時期：2003年8月

評価：昨年度実施したアンケート調査から、地域デイサービスは235箇所、月のべ1万人が利用者があり、4000人のスタッフ・ボランティアで運営・実施されていることが判明しました。その地道な地域の福祉活動を行政や関係機関に周知する必要性と、課題解決への方向性が明らかになりました。

### 冬のリレートーク第一部での報告発表

時期：2003年12月6日

評価：第一部で横浜市社会福祉協議会の島添氏と松本で協働実施の成果と行政の反響を報告しました。

P13 (3)ア)冬のリレートークの項 参照

### 提言、行政との話し合い

時期：2003年9月8日 参加者：横浜市福祉局より7人、当会連絡会メンバーと事務局より9人

評価：上記実態調査報告書から、地域のこれらの活動を認めて支援をするよう求め、同時に「これらの地域デイこそ介護予防につながる」との結論を得て、市の介護予防デイに柔軟な制度実施を提言しました。行政の誠実な対応から、提言が何らかの形で活かされるという手ごたえを得ました。結果16年度の予防デイに「巡回型」が新たに加えられました。 P16 提言書の項 参照

### セミナーの開催

家族・地域・施設で痴呆の方をどう支えるか

目的：地域デイにも痴呆の利用者が増えてきたことから、スタッフもより深く痴呆の方を理解し、地域で出来ることは何かを学びます。

日時：2003年6月7日(土)午後2時～午後4時 参加費：一般1000円、会員500円

場所：横浜ワールドポーターズ6F イベントホール 参加者：75名

講師：永田久美子氏(高齢者痴呆介護研究・研修センター主任研究主幹 サービス評価推進室室長)

主催：市民セクターよこはま 企画は連絡会でしたが主催は市民セクターよこはまとして行いました。

評価：福祉局の梅澤氏の紹介で、痴呆分野での第一人者である永田氏をお呼びできたことが何より大きな収穫でした。家族や本人にどこまでも寄り添い、深く理解することの大事さと難しさをしっかりと教えられました。その内容の豊かさと感動を多くの人に知らせたいとの一致した思いから、講演内容を冊子に纏めました。(1冊500円で頒布中、ご希望の方は事務局まで)

より魅力的なデイに～講座&あそびリテーション実技

目的：2003年2月に実施した市内デイサービス・サロン実態調査で、課題として上がった、スタッフの高齢化・減少、プログラムのマンネリ化、工夫の大変さ、利用者の高齢化等の解決策を探るべく、元気の出るアイデアや知恵、スタッフの心がけること、高齢者への理解を深めるお話なども学ぶ。

日時：2004年2月27日(土) 会場：横浜ワールドポーターズ6階イベントホール

講座：午後2時～3時45分、連絡会：午後4時～5時 講座終了後に実施 参加者：110人

講師：横浜勇樹氏（松坂大学短期大学部助教授） 参加費：一般 1000円、会員 500円

評価：参加者は地域デイのメンバーやセクターの会員は少なく、ほとんどが施設関係者で、今回も現場担当者の横の連絡が求められていることを痛感しました。講師の話は楽しく、レクも次々と披露されましたが、時間が足りなかったこと、レクには人数が多すぎたことが心残りでした。続く連絡会は2つのグループに分かれて実施し、地域デイの活動者のグループは少人数でたっぷり情報交換が出来ました。又施設関係の参加者のグループもたくさんの方が残って、情報交換や本音トークを行いました。

## ウ) 事業型NPO連絡会

本年度は介護保険制度の介護報酬の改定・支援費制度の施行期だったため、発生している課題別に情報交換する場を設けていくということを目指しました。

### 講演、連絡会の開催

情報交換会：支援費制度

目的：平成15年から施行された支援費制度は、事業運営上も、介護保険とは課題が違うことを受け、支援費制度の指定事業を始めた会員団体に呼びかけ、相互の情報交換を進めます。

日時：2003年7月19日 10:00～13:00 場所：コモンズ21 参加者：9名

評価：参加者は少なかったが、契約書のあり方、実際の契約の方法等、高齢者の介護保険とは違う課題があることを認識でき、また、じっくりと各々の工夫、困っている課題等を持ち寄ることができました。

情報交換会（知恵の交流会）（マネジメント支援プロジェクトと共催）

目的：自分の会デイサービス見学と事業型NPO連絡会の介護保険デイサービス実施団体の情報交換会

対象：事業型NPO連絡会の介護保険デイ実施団体

日時：1月29日17～20:00 場所：NPO法人自分の会 テーブルリーダー：自分の会 参加者：13人

評価：駅前マンション型デイから、新たに駅近民家型デイに転換した自分の会さんでは、意識してゾーン分けしてあるサービス提供スペースを視察できました。また、昨年につき、年に1回のペースの情報交換会なので、テーマを絞らずフリートークし、リクレーションの道具等、具体的なサービス上の工夫等の情報交換ができました。新人職員が積極的に出席し、団体交流の中で、新たな人間関係の構築にも、繋がりました。

ケアマネジャー等のミーティング

本会発行の書籍の編集に時間を割いた為、開催時期を逸し、開催に至りませんでした。

### セミナー・研修の開催

リスクマネジメント講座シリーズ【第2回】「リスクはここに！～事例とワークから考える」

（マネジメント支援プロジェクトとの共同開催）

目的：訪問系のリスクマネジメントは、施設系に比べて、確立が難しい。訪問看護として、先駆的にリスクマネジメントを実践している講師、また保険会社の立場から、リスクマネジメントを学びます。

在宅ケアにはどんなリスクがあるのか、事例から認識し、リスクに対する意識を高め、ワークなどを通じて、報告書（「ヒヤリハットレポート」など）作成に取り組むきっかけとし、自分の活動に結び付けていきます。

日時：2003年4月19日 13:00～16:30 場所：ウィリング横浜 参加者：27人

講師：曽我優子氏（特定医療法人健和会 大島訪問看護ステーション）

山中壮士郎氏（三井住友海上火災保険株式会社横浜支店）

対象：NPO等在宅ケア（訪問介護、訪問看護、居宅介護支援、移送サービスなど）事業者の管理者、サービス提供責任者、事務担当者

評価：リスクに対する訪問系事業者のボトムアップにつながられました。会員団体と非会員団体が約半分づつの割合の参加で、関心の高さが伺われました。しかし、保険については、掘り下げが不足した内容にとどまりました。

リスクマネジメント講座シリーズ【第3回】（マネジメント支援プロジェクトとの共同開催）

目的：ヒヤリハット・レポートに基づくケース検討を通じて、具体的な対策を打ち出し、組織全体でリスクマネジメントに取り組むきっかけにする。

日時：2003年9月27日 14:00～16:30 場所：ウィリング横浜 参加者：19人

講師：中野しずよ氏（ワーカーズわくわく）

アドバイザー：青柳由紀代氏（自分の会）、柳原真理子（市民セクターよこはま）

評価：サービス提供責任者レベルの参加で、後半は、事例を出しあってのKJワークを実施しました。事前課題とフォロー（当日のグループワークの成果物に講師・アドバイザーからのコメントをつけ、参加者に送付）により、セミナーの成果を高めるよう図りました。

支援費関連セミナー～障害者年金について

日時：2003年7月19日（土） 午後1:30～3:00 場所：複合スペース commons 21 参加者6名

参加費：一般1000円、会員500円、連絡会会員：無料 講師：小山志郎氏（社会保険労務士）

評価：テーマが狭かったせいか、参加者は少なかったのですが、講師の専門性が高く、わかりやすい資料をコンパクトにまとめていただいていたため、質疑応答も活発に行われました。今後、当会の相談事業に対応者として、参画していただけることに繋がりました。

ALS患者会とともに行うヘルパーのためのケア講習会～コミュニケーションとれますか？吸引できますか？

共催：日本ALS協会神奈川県支部 場所：かるがも2F多目的ホール 参加者：37名

日時：2003年10月25日（土） 午前10時～午後3時 参加費：一般4500円、会員3000円

講師：本多虔夫氏（前横浜市脳血管医療センター長）、長岡明美氏（日本ALS協会神奈川県支部）

小林敦子氏（保土ヶ谷医療センター訪問看護ステーション管理者）

評価：当事者の患者さんも会場に迎え、緊迫感のある会場で、ALS患者会と共催で今後の方向性を示唆する講習会を実施することができました。また、7月に出示された痰の吸引などについての厚生労働省通知に関連して、訪問介護を実施している参加者からの声があがり、改めてALS患者と家族、そしてヘルパーが置かれている立場が浮彫りとなりました。会員以外の参加者が多く、医療と介護の間に挟まれた問題への関心の高さを認識できました。

「介護保険事業者のための税金と社会保険 最新情報」（マネジメント支援プロジェクトとの共同開催）

目的：当会では初めての、事業型NPOの事務局長・事務スタッフを対象としたセミナー。次年度の計画策定時期に合わせて、事務スタッフが必要な知識や情報を、専門家より提供していただく。

日時：2004年2月12日 13:20～14:55 場所：フォーラムよこはまセミナールーム2 参加者：21人

講師：小山志郎氏（社会保険労務士）、渡邊礼子氏（税理士）

対象：NPOを中心とする介護保険事業所の事務局長、事務スタッフ、管理者、会計・労務担当者

評価：本プロジェクトを通じて、事務スタッフを対象とする研修や交流のニーズがあることが分かり、実施しました。企画面では、各講師の持ち時間が短く、時間配分の難しさが課題として残りました。今後は、2004年度に開始する小山氏による個別相談会にて、フォローすることが可能となりました。



## 情報配信（毎月1-2回）

時事の国・県・市の医療・福祉施策、横浜市政、福祉健康関連事業・文化・サービスの動向等を中心に、会員団体にFAX等で情報を配信。ボランティアスタッフ峰氏等の協力も得ながら情報を集め、担当理事がセレクトし、FAXで連絡会所属団体へ情報提供を行いました。

## エ) 精神保健福祉 RENRAKU 会

精神保健福祉ユーザーにも、ホームヘルプサービスが開始され、ユーザー、家族にとってどの様に在宅生活を豊かにする制度になっているかを検証、支え手であるヘルパーのミッションや、研修等について、考えていく場の必要性を感じ、NPO、ホームヘルパー派遣事業所、ユーザー、医療スタッフ、担当の行政・社協職員等で連絡会を立ち上げました。

平成15年6月15日、ホームヘルパー派遣制度の産みの親の一人でもある三田氏の講演からたくさんの知恵、勇気、元気と安心を頂き、在宅に向かって出来ることから皆で始めながら回を重ねてきました。その結果、毎回出会えた方々とのつながりや専門家による検証などで課題が明確になり、次の方向性が見えてきました。

社会福祉・医療事業団助成事業（10月独立行政法人福祉医療機構に名称変更）

### 連絡会の立ち上げ

目的：精神保健福祉ユーザーとサポーターが、それぞれの立場を超えて同じ“地域で暮らす”視点で繋がり、それぞれができることを考え、行動に移すことによって、より豊かな地域での暮らしの実現をめざしまして、立ち上げました。

### セミナー&サロン・連絡会の開催

制度ありき...されど中身は？～脱病院 精神保健ユーザーが今置かれている状況～

目的：精神保健福祉ユーザーとサポーターがともに地域の暮らしについての課題を見つめ、学ぶ場を定期的に持ち、できることを考えていく。

日時：2003年6月15日午後2時～4時45分 場所：横浜市青少年育成センター研修室1

参加費：会員500円、一般1000円 参加者：65名 後援：横浜市

講師：三田優子氏（花園大学社会福祉学部専任講師）濱田静江氏（NPO法人たすけあいゆい理事長）

評価：“地域での暮らし”を支えるサポーターが持つべき重要な基本視点・姿勢について学ぶことができ、共通の思いを持つ方がRENRAKU会を立ち上げることにつながりました。

対象：NPO/ホームヘルプサービス事業者/精神保健福祉ユーザー/作業所職員/関係機関・行政職員  
/一般市民等

### 精神保健セミナー&サロン RENRAKU 会立上げ交流会

精神保健ユーザーが地域で暮らすために～病院現場からみえる課題とは～

日時：2003年8月9日（土）午後2～5時 場所：情報コミュニティサロン animi 参加者：24名

後援：横浜市 参加費：会員・一般ともに1000円（喫茶代を含む）

講師：三橋良子氏（医療法人新光会ソーシャルワーカー）

評価：病院から出て地域で暮らすまでの間の様々な課題、病院の中にある課題、地域にある課題等についての理解を深めることができました。RENRAKU 会立上げ交流会では、特に代表はおかず、ゆるやかなネットワークとして、出発することが確認され、この日が正式な設立日となりました。

### 精神保健セミナー&定期ミーティング

精神保健ユーザーと地域での暮らしをサポートする人たちが語るホームヘルプサービス活用術（円卓会議）

日時：2003年10月26日（日）午後2時～4時30分 参加者：25名 後援：横浜市

場所：ウイリング横浜 参加費：一般1000円、会員500円

ゲスト：広田和子氏（精神医療サバイバー） パネリスト：白藤有三氏（精神保健福祉ユーザー）

勝俣恵子氏／神谷幸子氏（ホームヘルパー）、杉浦喜美子氏（鶴見区福祉保健センター障害者支援担当）

評価：パネリストそれぞれの立場から見える、ホームヘルプサービスの現状と課題をお話しいただき、それらを共有でき、相互に気づきを得たことで、今後の関わりにおいて活かせるものを見出せるものとなりました。

#### 精神保健サロン「らくらくバンドと共に楽しむ音楽会」&定期ミーティング

日時：2004年2月1日（日）午後2～4時30分 場所：情報コミュニティサロン animi 参加者：22名

参加費：1000円（お茶とお菓子付き） 演奏バンド：らくらくバンド

評価：精神保健福祉ユーザーが多数加わっているバンドとの交流を楽しみながら、参加者それぞれの立場の現状や悩みなどについて共有し、ユーザーからのアドバイスをもらうことなどができました。そこでユーザーとサポーターがネットワークを組むことの重要性を再認識することができました。定期ミーティングでは、「精神保健福祉ユーザーに対する実態調査」結果についての中間まとめ報告をし、意見交換できたことで、まとめの方向性と今後RENRAKU会がめざしていくことが明確になりました。

#### 精神保健福祉を拓くための担い手の質の向上とユーザー参加セミナー

目的：ユーザー参加を前面に打ち出し、ユーザーとサポーターがそれぞれの立場を超えて、ともに暮らしや働くことについて考える。

主催：市民セクターよこはま 精神保健 RENRAKU 会 / （社福）横浜市社会福祉協議会

参加費：2000円（12・26日両日参加 1日のみの場合は1000円） 場所：ウイリング横浜

##### 1日目：精神保健福祉基礎研修 「暮らしを支える人としくみ」

日時：2004年3月12日（金）午後1時～5時30分 参加者：90名

講師：池末美穂子氏（日本福祉大学社会福祉学部保健福祉学科教授）

評価：これまでの精神保健の歴史から今現在の制度の動きなど講演いただき一連の流れを理解できた。ワークショップは、ユーザーとサポーターが普段の関係とは違った「同じ参加者」として対等に本音を語る事ができました。

##### 2日目：「無理なく働きたい、自分らしく生きたい！～精神保健福祉ユーザーの当たり前の暮らしとは？～」

日時：2004年3月26日（金）午後1時～5時30分 参加者：91名

コーディネーター：寺田一郎氏（（社福）ワーナーホーム 理事長）

シンポジスト：有賀美代氏（地域精神保健を考える会 窓の会 会長）、木村隆介氏（富士ソフト企画（株）特例子会社 営業・採用担当部長）、清水里香氏（（社福）浦河べてるの家 「ニューべてる」施設長）、渡邊一成氏（渡邊法律事務所 弁護士）

評価：“働く”ことをテーマにシンポジストから現在実践していること、これからできることについてお話いただき、これからの可能性について考えるきっかけとなりました。ワークショップでは、具体的にそれぞれができることを考えたことで今後の取り組みについて整理し、次の一歩につながるきっかけの場となりました。

#### 精神保健福祉ユーザーに対するホームヘルプサービス・ボランティア活動利用実態調査

目的：ホームヘルプサービス制度が開始されて1年経ち、実際にサービスがどのように活用・提供されているか、実態と課題を明らかにし、より活用しやすいものにしていく。

調査場所：横浜市内 調査期間：2003年11月11日～25日

調査対象者： 精神障害者ホームヘルプサービスを利用している精神保健福祉ユーザー 38名  
と回収数 精神障害者ホームヘルプサービスを提供しているホームヘルパー 64名  
精神保健福祉ボランティア 72名

調査方法： ホームヘルパーによる配布、ユーザーによる直接記入及びヘルパーによる聞き取り調査  
郵送調査

実施機関：市民セクターよこはま / (社福)横浜市社会福祉協議会 横浜市ボランティアセンター

評価：結果から、今後取り組んでいくべき課題がみえ、RENRAKU 会としてできることを見出すことにつながりました。実施体制については、ボランティアセンターとの協働で行いましたが、手探りの状態であったために財源の配分、お互いの役割分担等に時間がかかり、今後協働していく上でのポイントについて学ぶことができました。

### 調査報告書・講演録の発行

・報告書：『サラバ日課表 制度を活かし、地域の人と共に暮らす』(2004年3月発行)

上記調査報告と分析、およびセミナーの講演から、RENRAKU 会の方向性を示すテーマを選び冊子としてまとめました。

### パンフレットの発行

RENRAKU 会の概要をまとめ、今後ネットワークを広げていくために活用することを目的に作成しました。

## オ) マネジメント支援プロジェクト(MAP)

事業型 NPO に対して、ハンドブック発行・出版、相互支援システムの立ち上げ、セミナー開催などによる支援を開始。また、地域デイサービス(介護保険・介護予防型以外のデイサービスおよびサロン)向け支援の準備として、フィールドワークを行ないました。

### ハンドブック発行・出版

『リスクマネジメントセミナー・ダイジェスト』発行

2002年10月に横浜市社会福祉協議会と共催した「在宅ケアのリスクマネジメント講座シリーズ第1回」の講演録を発行。当日配布したマニュアル類も掲載しました。

日時：2003年4月(第1版 49冊)、7月(第2版 35冊) 頒布価格：700円

対象：訪問介護事業者など在宅福祉サービスの事業者の管理者、サービス提供責任者、事務担当者等

評価：累計70冊を販売(2004年3月末時点)。当会初の講演録発行。セミナー開催を、出版という別の事業に結びつけるという事業展開の試みでもありました。この出版を通じて広く知ってもらうべき内容は「冊子」という媒体を介して、セミナー参加者以外にも普及させることと、事業の採算性を意識することの重要性を再認識するようになりました。また、運営委員やボランティアスタッフのスキルを活用して講演録を発行できると分かり、以降、当会の事業の幅を広げることにもつながりました。

### 訪問介護事業者NPO向けマネジメント・ハンドブック

『困ったときのゲンバの知恵袋【訪問介護編】～福祉のNPOを元気にするマネジメント』発行・販売

日本財団助成事業の一環。2002年年度に横浜市内の介護保険事業を行なうNPOを中心とする事業所にて実施したフィールドワークを踏まえ、各団体の組織・事業マネジメントのノウハウやその基礎となっている考え方をハンドブックに集約。先駆者の蓄積を、これから指定事業者になろうとしている団体や、指定事業者として「思い」の実現を追求する団体と共有し、活用してもらうためのツールとして開発、頒布しました。

日時：2003年8月発行（600部） 頒布価格：2500円

対象者：横浜市および全国の、訪問介護事業を行なうNPOを中心とする介護保険事業者およびこれから立ち上げを考えている人

評価：フィールドワーク実施団体と担当理事の全面的かつ献身的な協力により作成された本書は、全国的な販売戦略が功を奏し、当初計画の100冊を大きく上回る364冊を販売。予定より2ヵ月半遅れて出版しましたが、購入者から活用例、追加注文や続編の問合せが寄せられるなど、高い評価を得ています。NPO以外の事業者や他分野のNPOでの活用、他の支援センターでの活用や支援メニュー開発のヒントになるなどの波及効果もありました。販売体制については、さらに改善の余地があると思われます。

#### 地域デイ実施団体のためのマネジメント・ハンドブック作成プロジェクト

よこはまふれあい助成金、日本財団助成事業

実施体制：横浜市社会福祉協議会ボランティアセンターとの協働事業。

（当会スタッフ2名、アドバイザー1名、市社協ボランティアセンター職員1名でプロジェクトチームを形成。）

目的：地域デイサービス・サロン実施団体の運営上の課題解決を継続的に支援するため、団体がそれぞれ持つ知恵や工夫を共有するツールとしてのハンドブックを作成し、その過程を通じて、現場に精通した支援を行なえる人材の育成、当会と横浜市社協、および地域デイ実施団体間における協働を推進する体制づくりをはかること、の3点をねらいとしました。

内容：横浜市内で地域デイを実施する団体にてフィールドワークやヒアリングを行ない、現場の知恵やノウハウ、活動についての考え方などを収集して、ハンドブックにまとめるというもので、2003年度は、横浜市内の21ヵ所の地域デイサービスおよびサロン実施団体と、3ヶ所の介護保険または介護予防型デイサービス事業所、3ヶ所の地区社協等にてフィールドワークおよびヒアリングによる情報収集を行ないました。

評価：横浜市社協の持つ情報や高い信頼度と、当会の持つフィールドワークおよびハンドブック作成のノウハウや経験を活用して、円滑に事業を実施することができました。フィールドワークにより、地域デイ実施団体間のネットワークの要となれる素地ができました。

#### イベントの開催

ハンドブック発行記念イベントの開催

目的：『困ったときのゲンバの知恵袋【訪問介護編】』を活用していただくきっかけづくり、および事業型NPO連絡会のマネジメント相互支援システム「知恵袋システム」の発表。

日時：2003年11月15日（土）14時～17時 場所：赤レンガ倉庫1号館2階スペースC

トークゲスト：木崎光子氏、清水杉子氏、小林潮氏（NPO法人 グループたすけあい理事）

コーディネーター：松原優佳（市民セクターよこはま）

音楽演奏：市瀬孝子氏（完音楽企画主宰）、渡邊藤子（市民セクターよこはま運営委員）

参加者：神奈川県内の訪問介護事業を行なうNPOの理事、事務局など、実務担当者。協力団体を中心に24名。

評価：トークのテーマを「人を活かすマネジメントの考え方や実践方法」に絞って内容を練ったことで、参加者からの評価を得ました。

#### 介護保険事業者NPOのマネジメント相互支援システムの開始

情報交換・紹介サービス - 「知恵袋システム【訪問介護】」

事業型NPO連絡会加入団体の利用できるサービス。介護保険訪問介護事業を行なう団体が持つ事業・組織運営の知恵やノウハウを、お互いにいつでも活用できるよう、当会に蓄積・更新し、提供します。

日時：2003年11月より試行。2004年4月より本格始動。

お互いの知恵やノウハウを持ち寄って、交換・検討する場の開設 - 「知恵の交流会」

訪問介護事業

日時：第1回 2003年11月15日 16:00~17:00 (「ゲンバの知恵袋」出版記念イベントと同時開催)

第2回 2003年2月12日 15:15~16:45 (セミナーと同時開催)

場所：第1回 赤レンガ倉庫、第2回 フォーラムよこはま 参加者：第1回 24人、第2回 15人

テーブルリーダー：第1回 グループたすけあい、第2回 たすけあいあさひ、あしほ、柳原(当会理事)

評価：セミナーなどと同時開催し、テーマを絞った具体的な知恵の交流ができるように図りました。

デイサービス事業 (事業型 NPO 連絡会と共催)

P6 事業型 NPO 連絡会の項 参照

日時：1月29日 17~20:00 場所：NPO 法人 自分の会

**セミナーの開催** (事業型 NPO 連絡会と共同企画開催)

P6~7 事業型 NPO 連絡会の項 参照

在宅ケアのリスクマネジメント講座シリーズ第2回「リスクはここに！～事例とワークから考える」

在宅ケアのリスクマネジメント講座シリーズ第3回「“ヒヤリ・ハット” 個別ケースから考えるシステムづくり」

「介護保険事業者のための税金と社会保険 最新情報」

## カ) こらぼアートプロジェクト

**ユニバーサルデザイン衣料等の企画・制作**

・問い合わせ6件のうち、1件(レインコート)を、受注・制作しました。次年度、問合せのマニュアルを整備予定です。

## (2) 連携とネットワークづくり

行政や企業、ネットワーク団体との連携を模索しました。

特に今年度は、地域福祉計画について 福祉局地域福祉課、横浜市社会福祉協議会企画課、研修事業の企画について ウィリング横浜、委託事業「かるがも塾」について 保土ヶ谷区サービス課、精神保健福祉 RENRAKU 会の立上げについて横浜市衛生局地域保健福祉課などとの連携が強まりました。

## ア) 連携協力団体

・情報コミュニティサロン animi (NPO 法人アニミの事業) との連携。

会議や研修の会場に使用し、ニュースレター等を通してアニミの紹介に努めました。

・横浜移動サービス協議会との連携。

協議会の「かながわ福祉移動ネットワーク設立」への参画をとおして、当会と協議会の関係性について議論となり、協議会の主体性を尊重することになりました。

## イ) 連携協働事業

横浜市地域福祉計画への参画

策定委員に当会として参画しています。コミュニティーワーカーの検討について慎重に進めること、障害児の母親の意見を最大限活かし、学校教育まで踏みこんだ計画にもっていくなど、参画した成果が形になりました。

また、当会では、パブリックコメントに会としての意見を出すべく、1月14日に勉強会を開き、議論された内容をまとめ、2月27日に意見書を提出しました。今回の地域福祉計画は3月末に最終的にまとめられましたが、市民セクターよこはまの意見が最大限に盛り込まれた、今迄にはない計画となっています。

#### 横浜市社会福祉協議会との連携

当会と横浜市ボランティアセンターとの協働事業として、「横浜市内地域でイビズ・サロ 介護予防型でイビズ実態調査報告書」、「地域でイビズハンドブック作成プロジェクト」、「精神保健福祉ユザーヘルパーボランティア対象サービス実態調査」などに取り組みました。また「冬のリラック」「これからの食事サービスを考えるつどい」を共催で実施。ウィリング横浜で行なわれてきた「訪問介護員養成研修 1 級課程」も 2004 年度協働で実施することとなり、協働が広がってきました。

#### 情報ネットワークの構築による会員団体や外部団体との連携 P2 【1】組織運営の(2)イを参照

##### かながわまちづくり情報センター(アリスセンター)との相互協力

アリスセンター、せんだい・みやぎ NPO センター、市民活動センター神戸の 3 支援機関がトヨタ財団の助成を受けて行う、「NPO の政策提言力、NPO の参画を保障する自治体の政策形成システムの検討」(NPO アドボカシープロジェクト)に参画し、政策提案の事例検証として当会理事等 4 人が個別ヒアリングに対応し、協力しました。

##### NPO スクエア入居団体及び横浜ワールドポーターズ、ニューライフマートとの連携

9 月に実施されたバリアフリーフェア 2003 への参画を通して、連携を深めました。

##### 横浜市市民活動共同オフィス入居団体との連携

10 月に実施した「入居団体成果発表会」等を通して、第 1 期・第 2 期団体とも連携を深めました。

##### 神奈川県経営者福祉振興財団との連携

1 月より、当会団体会員への特典として、無料で団体ホームページを作成し、財団が運営するウェブサイト「産業 Navi」へ掲載していただけることとなりました。1 月～3 月の間に、2 件の申込があり、財団に制作して頂きました。<http://www.navida.ne.jp/sangyo/> (産業 Navi)

##### 県域・市域の在宅福祉ネットワーク団体との交流・連携を模索

- ・これからの横浜を考える会
- ・神奈川ほーむへるぶネットワーク
- ・神奈川ワーカーズコレクティブ連合
- ・ワーカーズコープ愛コープ神奈川
- ・全国市民福祉団体協議会
- ・さわやか福祉財団

### (3) シンポジウム、セミナー、研修等の開催

- (1) 行政施策への市民参画を図るため、各福祉事業へのボランティア・NPO の参画の可能性を考える機会をもつ
- (2) 本年度施行の支援費制度についての検証を行なう
- (3) NPO、ボランティアに関わる新たな課題について取り組んでいく、以上 3 つのことをめざしました。

#### ア) 行政職員と市民によるリレートークシリーズ開催

第 1 回テーマ：Let's 市民参画シリーズ“春のリレートーク”横浜市地域福祉計画他について  
日時：2003 年 4 月 26 日 午後 2 時～5 時 場所：ウィリング横浜 123 研修室 参加者：53 名  
プレゼンター：榎村光一氏(横浜市福祉局地域福祉課)宮本正彦氏(横浜市福祉局企画課)木村文枝氏(横浜市福祉局障害福祉課)西尾敦史氏(横浜市社会福祉協議会企画課)  
ディベート対応者：泉一弘氏(NPO 法人いこいの家夢みん)岡村道夫氏(NPO 法人アニミ)濱田静江氏(NPO 法人たすけあい ゆい)松本和子氏(NPO 法人子育てネットワークゆめ)南出俊男氏(千丸台地区社会福祉協議会)コーディネーター：吉原明香(市民セクターよこはま)

評価：新しい試みとして、行政・社協の担当者にパワーポイントをつかって新事業をプレゼンテーションして頂く企画でした。行政職員の事業説明はいわゆる「硬い」ものが多い中、工夫をこらしわかりやすく説明がなされました。市民側も要求・要望だけではなく共に地域福祉を担う者としての共感や自分たちの活動への自負を感じさせる発言が相次ぎ、継続開催の要望が多く聞かれました。

#### 第2回テーマ:Let's 市民参画シリーズ “ 冬のリレートーク ”

～横浜市地域福祉計画(全市計画)、横浜市福祉サービス第三者評価事業、新時代行政プランアクションプラン

日時：平成 15 年 12 月 6 日(土) 午後 1 時～5 時 \*会場内オープンハウス：正午～午後 1 時

第一部：13:00～13:45 デイサービス・サロン実態調査報告会

\*第一部は、ユニバール財団の助成を受けて実施。

第二部：13:45～17:00 プレゼンテーション(行政職員)&代表質問(市民)

会場とパネラーで、トークセッション

場所：あーすぶらざ(地球市民プラザかながわ)1階会議室 参加費：一般 1000 円、会員 500 円

主催：市民セクターよこはま 共催：(社福)横浜市社会福祉協議会

評価：第 1 回の好評に応え、デイ・サロンの実施団体も足を運んでくれることを期待しつつ第 2 回を開催しました。質問・意見表が予想以上に多数出され、十分に回答していただく時間がとれなかったほどでした。しかし、各担当者はそれを持ち帰り、課内で共有。政策に、行政職員・参加した市民に、一定の影響・効果が得られました。

### イ) 支援費制度関連フォーラム開催

#### ウ) シンポジウム開催

支援費制度関連フォーラムとシンポジウムについては、連絡会・プロジェクト主催事業などで予定がつまり、また、本会の障害者関係の取り組みの蓄積が弱いことなどもあり、開催できませんでした。

### エ) 研修事業実施

#### かながわ NPO マネジメントカレッジ 2003 (前年度より継続事業)

専門編講座 福祉サービスのリスクマネジメント～リスク・マネージャー養成に向けて

内容：県内 11 の NPO 支援センターとの共催で、神奈川県内で 9 回のセミナーを実施。当会は、企画、広報、福祉系 NPO を対象とする 1 つのセミナーの企画・運営、及び交流会運営を担当。また今回は支援センターの人材育成を兼ねており、共催団体のスタッフ向け研修を実施したほか、2 つのセミナー内のワークをファシリテートし、スタッフのスキルアップを図りました。

日時：2003 年 6 月 14 日 13 時 15 分～16 時 45 分 参加者：37 人 共催：県内 11 の中間支援団体・機関(本会含む)

主催：神奈川福祉事業協会 / 神奈川県遊技場協同組合 場所：かながわ県民活動サポートセンター

講師：石川治江氏(NPO 法人ケアセンターやわらぎ代表理事)、川北秀人氏(IIHOE 代表)、柳原真理子(NPO 法人市民セクターよこはま副理事長)、ファシリテーター参加：松原・戸嶋(市民セクターよこはま事務局)

評価：企画・運営を担当した 6/14 のセミナーについては、当会の専門性を生かし、ニーズに即した内容にすることができました。当会として、共催事業全体についての成果を十分に生かしきれず、また本事業を当会の今後の展開に結びつけることができませんでした。

### ホームヘルプ研修

横浜市社会福祉協議会ふれあい助成金協働事業が獲得できたことで、事務局体制がとれなくなったこと、収支面で支障が少ないことから、今年度の実施を見合わせましたが、平成 16 年度の訪問介護員養成研修 1 級課程の研修企画を、ウィリング横浜と検討を始めました。

#### (4) 市民活動の支援

中間支援組織としての力量を高め、市民、市民活動、行政、企業等への助言・相談等のコーディネーターの役割を担い、社会的に有効な働きをすることを目指しました。

##### ア) マネジメント支援事業

###### マネジメントに関する相談業務

- ・デジカメボランティア協会/ケアサポート青空/いっぽサポート/個人(以上対応者:事務局松原)
- ・BlueBell/ちえの輪/個人(介護者)/個人(団体立ち上げ相談)2件(以上対応者:事務局長吉原)

###### 神奈川新聞「NPO質問箱」欄 回答者の受任

- ・9月7日、10月26日、12月14日、2月1日、3月2日、3月21日(6回)

マネジメント支援プロジェクトをとおした相談対応、神奈川新聞への回答は、理事等にアドバイスを受けながら、事務局マネジメント支援担当の松原が対応しました。

###### マネジメントに関する講師の派遣等

講師派遣実績については、下表のとおりです。

##### イ) NPO法人化支援事業

##### ウ) 協働に関する相談事業

##### エ) 福祉サービス相談事業

##### オ) ホームページ作成支援

P13 (2)イ)連携協働事業の項を参照

イ)ウ)エ)の各相談事業については随時事務局で対応しましたが、それほど件数は多くありません。

「相談カード」を作成し、記録を始めました。

オ)については、神奈川県経営者福祉振興財団との連携により、団体・個人会員のホームページを無料で財団に作成してもらい、「産業Navi」に掲載していただくことができました。(2月より周知をはじめ、作成完了したのは下記1件でしたが、作成中の団体も2団体あります。)

- ・3月完了:NPO法人子育てネットワークゆめ [http://www.navida.ne.jp/snavi/npo\\_popo\\_5.html](http://www.navida.ne.jp/snavi/npo_popo_5.html)

##### 講師派遣実績:

2003年5月	東京 日本財団支援センター強化プログラム完了記念セミナー	事例報告者	吉原(理事・事務局長)
7月	保土ヶ谷区社協「地域で行うミニデイサービスの意義」	講師	松本(理事長)
	名古屋 市民フォーラム21 全国シンポジウム	事例報告者	吉原(理事・事務局長)
9月	北海道 NPO全国フォーラム「地域資源の再生」	〃	〃
	横浜ワールドポーターズ「バリアフリーフェア2003」 「バリアフリーカフェ」第二部 バリアフリートーク 〃 第三部 NPOスクエア交流会	コーディネーター 事例報告者	吉原(理事・事務局長) 松本(理事長)
10月	南区 生涯学習支援講座「男の地域デビュー」	講師	柳原(副理事長)
	南区 NPO法人たすけあい ゆい「訪問介護員養成研修2級課程」	〃	吉原(事務局長)
11月	旭区社協「福祉サービス第三者事業について」	〃	増田(副理事長)
12月	コープ山梨「中間支援機関立ち上げに関する勉強会」	〃	柳原(副理事長)
	(財)横浜市国際交流協会(YOKE)「地域連携調査学習会」	アドバイザー	泉(理事・事務局)
2004年3月	鶴見区 医療法人新光会「訪問介護員養成研修2級課程」	講師	吉原(理事・事務局長)
	都筑区「NPO基礎講座～NPOの活動とその役割」	〃	泉(理事)
	平塚市民活動支援センター交流会	コーディネーター	松原(事務局)



- 2 - 行政や社会への提案・提言及び広報等に関する事業  
行政や社会へ提言を行ない、種々の団体の委員を引受け、市民の参画を広げると同時に、市民の声の代弁を行なうことを目指しました。

### (1) 提言活動

デイサービス・サロン連絡会の調査をもとにした提言、および配食サービス連絡会でまとめた要望書、地域福祉計画市域計画へのパブリックコメントの提出と3回アクションを起こしました。

#### ア) 提言書の作成

2003年8月9日「要望書」を横浜市福祉局に提出。 P4「配食サービス連絡会」の項 参照

2003年9月8日「横浜市における介護予防施策についての提案書」を福祉局に提出。

P5「デイサービス連絡会」の項 参照

評価：市の対応は高齢在宅支援課4名、地域福祉課1名、企画課2名の計7名、当会からはデイサービス・サロン参加団体を中心に理事長松本、事務局吉原等計9名。前向きに対応と返事がいただけたことと2時間近く建設的な意見交換ができたことが収穫であった。その後、提出時に対応できなかったとして、地域福祉課の荒木田係長よりヒアリングしたいと申し出があり、南出（理事）吉原（事務局）で対応。4月以降に文書で返事がいただけること、提案を前向きに受け止め、高齢在宅支援課と調整する、地域福祉計画に地域総合助成金の考え方を示す方向性を示して頂き、施策の検討過程に参画できている実感を持ちました。

2004年2月27日「横浜市地域福祉計画（全市計画）中間案」へのパブリックコメントを福祉局に提出。

P12～13(2)イ)連携協働事業の項 参照

#### イ) 会員等の意見集約

各イベント・セミナー・フィールドワーク等において積極的に会員等の意見をいただく機会を作り、集約に努めました。

#### ウ) 取材、ヒアリングへの対応

取材・見学・ヒアリングについて下表のとおり、対応しました。

#### 取材・ヒアリング・見学対応実績：

2003年 4月	東京都大田区区民生活部	共同オフィス管理運営についてのヒアリング、NPOスクエア見学	吉原(理事・事務局長)、泉(理事・事務局)、戸嶋(事務局)
	神奈川県生涯学習支援係	同上	吉原(理事・事務局長)
	神奈川県民サポートセンター	同上	〃
	横浜市横浜プロモーション推進事業本部	コミュニティービジネスについて	〃
	東京女子大学社会学研究室	NPOで拠点を運営することについてヒアリング・見学	〃
	コミュニティー創造紙「ゆいまーる」	「共同オフィスこれまでとこれから」取材	〃
5月	旭区区長および区政推進課	「共同オフィス管理運営および中間支援機関について」見学・ヒアリング	泉(理事・事務局)
	長野NPOセンター	同上	泉(理事・事務局)、松原・戸嶋(事務局)
	きょうとNPOセンター	同上	松原(事務局)
6月	横浜市福祉局地域福祉課	「地域福祉計画について」ヒアリング	吉原(理事・事務局長)
	神奈川県生涯学習支援係	「神奈川県におけるNPO支援」ヒアリング	泉(理事・事務局)
9月	横浜市横浜プロモーション推進事業本部	コミュニティービジネスについて(2回目)	吉原(理事・事務局長)

9・11月	アリスセンター	政策提案に関するヒアリング	松本(理事長)、濱田(理事)、後藤(会員)、櫻井(会員)、吉原(理事・事務局長)
10月	横浜市福祉局地域福祉課	「介護予防に関する提言(9月に提出)について」ヒアリング	南出(理事)吉原(理事・事務局長)
12月	横浜市都市経営局政策課	「協働のあり方について」ヒアリング	吉原(理事・事務局長)

## エ) 各団体・行政機関等の各委員の受任等

下記のとおり受任しました。

- 継続**
- 横浜市第三者評価システム検討委員会委員 (副理事長 増田)
  - 横浜市社会福祉協議会福祉ボランティア部会委員 (理事長 松本)
  - 「福祉よこはま」編集委員 (理事長 松本)
  - 横浜市市民活動支援センター運営委員 (副理事長 増田)
  - かながわNPO研究会世話人 (理事・事務局 泉、理事・事務局長 吉原)
  - NPOスクエア連絡会共同代表及び連絡会会計担当 (理事・事務局長 吉原、事務局 戸嶋)
  - 神奈川ゆめコープ市民活動助成金「わくわく創造パートナーズ」審査委員 (理事・事務局長 吉原)
- 新規**
- 横浜市地域福祉計画策定委員 (理事長 松本、理事 泉)
  - 横浜市地域福祉計画分科会委員 (理事長 松本、理事・事務局 泉、理事・事務局長 吉原)
  - 都市基盤整備公団地域懇談会委員 (理事長 松本)
  - 横浜市経済局経済活性化懇談会委員 (理事長 松本)
  - 横浜市社会福祉協議会企画委員 (理事長 松本)
  - 横浜市社協ふれあい助成金運営委員 (副理事長 増田)
  - 住友生命社会福祉事業団コミュニティケア活動支援プログラム助成金審査委員 (事務局 松原)
  - 保土ヶ谷区ほっとコミュニティーサービス支援会議委員 (理事 南出、理事・事務局長 吉原)
  - 横浜市社会福祉審議会委員 (理事長 松本)

## (2) 広報活動

### ア) ニュースレターの発行

2003年度は、17号～21号を発行しました。表紙右肩部分に掲載するイラストを、募集したことで(社福)ぴぐれっと、ARTLABOVAなどとの連携が生まれ、会員紹介コーナーを復活し、紹介記事を掲載することができました。また、記事を通して「ろばと野草の会」など会員外の団体とのつながりも生まれました。

### イ) ホームページの運営

2003年5月に、ホームページを全面リニューアルできました。任意団体時にボランティアさんの手で作られてきた、温かな雰囲気をはきつぎ、膨大になった基本情報を整理、見やすいページを心がけました。更新は月3回程度行ない、常に新しい情報が載っています。

### ウ) メールマガジンの発行

2003年9月より、月に1回メールニュースを発行しています。創刊準備号3回、創刊してから3月までに第4号まで、計7回、配信しました。(おおよその配信数:会員80、行政・協力者等300 合計380通)

### エ) パンフレット等 広報物の作成

2003年5月、NPO法人となった当会のロゴマークの制作、およびパンフレットを製作しました。事務局の中で広報担当を決め、広報先の検討をかさね、広報リストの整備、広報物全般のリニューアルを行いました。さらに効果的・効率的な広報活動のため、各媒体の内容・構成の見直しなどに、とり組みはじめています。

### - 3 - 行政・企業・市民との協働に関する事業

行政や企業との協働作業を一層すすめ、市民の共感を得、市民の立場を高め、より暮らしやすいまちづくりをめざしました。

## (1) 横浜市市民活動共同オフィス 管理運営業務の受託

本会は市民活動支援と、協働推進という二点でミッションを共有できることから、2002年10月より、公募・公開プレゼンテーションを経て、管理運営団体となりました。ここでの成果を支援センター（区版）や、協働事業の先行事例としてこれからの横浜の協働に活かしていきたいと考えています。

### ア) 管理運営

#### イ) 共同オフィスにおける入居団体との協働のあり方の検討

第1期後半（4～9月）は、管理運営については徐々に慣れ、ノウハウも蓄積され、共同オフィスにおける協働の実験・検証の取り組みに重点が移りました。入居団体町内会規約の整備、協働提案カードの作成～提出～検討へとすすみましたが、事業に結びついたのは2団体でした。

第2期は、1～2月に11入居団体へ、市民局と当会が個別ヒアリングを行いました。又、3月より入居団体の「活動現場」を知ることが大切と、「現場見学」が始まりました。入居団体連絡会も自立的にすすめられており、5月以降は入居団体主催の「協働連続講座」も予定されています。

## (2) 協働のありかた研究会よこはま への参画

この研究会は、当会が共同オフィスの管理運営団体として提案し、行政と共に参加を呼びかけ、2002年12月発足しました。研究会の分科会も提案し（仕組み、情報、自立とコミュニティビジネス、評価）、その一つ「仕組み分科会」を中心的に担っています。2003年3月15日の協働シンポジウムでも運営と分科会に精力的に参画し、しくみ分科会の3本の柱（契約のあり方、合意形成のあり方、条約つくりに向けて）が決まりました。

以後も仕組み分科会では横浜市の行政が中心となって進めた区づくり推進費、パートナーシップ事業、市民活動推進条例などの実践者を招いての勉強会、自治基本条例やまちづくり条例などの先駆的な事例を学んできました。

2003年11月の協働フォーラムは、市内で長く実施されてきた協働事業と新しい研究会の各分科会とすべてを網羅したフォーラムとなりました。仕組み分科会が担った分科会では、先駆的都市の行政・市民両者を招いて、内容的に一步進んだ議論が出来ました。

横浜市が予定していた協働指針つくりには、普段の研究会の議論も反映され、更に研究会としてまとまった提言を作成したので、内容も協働で作成したとの実感がもたれています。この提言作成には当会が尽力しました。

この指針づくりが一段落した時点で、研究会を広く市内全域に開くと同時に、目標の設定や運営のあり方などを見直そうとしています。

### ア) 各分科会・プロジェクトへの参画

#### イ) 協働のあり方全国大会への参加

市民セクターよこはまとして、しくみ分科会へ松本理事長、増田副理事長、吉原理事が参画しています。

全国大会は「コラボレーションフォーラム横浜」というタイトルで、2003年11月28・29日に実施され、しくみ分科会を担当し、他都市の事例を学びました。

### (3) “ほっと” コミュニティーサービス「かるがも塾」の受託

目的：地域における福祉・保健活動立ち上げ支援を目的に、はじめて区をエリアとした受託事業に取り組みました。相互に学び合うことをコンセプトに、受講者や関係者が受講終了後も繋がりが合えるよう交流に力を入れて取り組みました。

主催：保土ヶ谷区役所サービス課 / 市民セクターよこはま 参加者：24名

日時：2003年6月21日～8月2日（6回） 場所：かるがも 2F 多目的ホール（星川地域ケアプラザ内）

講師：杉浦裕樹氏（横浜未来街づくりラボ）、上条茉莉子氏（コペルNPO）、松本修一氏（Vマネジメント）  
松本和子氏（ドリーム地域の集い）、吉原明香・松原優佳（市民セクターよこはま）

評価：今年度受講者から「ほっとコミュニティサービス助成事業」へ申請したのは2団体でした。来年度起業予定の団体も4団体あり、目的はある程度達成されましたが、実際の事業立ち上げ、運営が軌道に乗るまでのフォローアップの必要性を当事者・行政・当会担当者としても感じています。会員団体9団体とよこはま里山研究所が実習を受入れてくださり、事業立ち上げの大変参考になったというアンケート結果がでていました。反省点も含め、受講者評価アンケートの結果を尊重し、翌年度に活かしていきます。